

今案難產時、至心禮懺、誦一十遍、神驗不可言、常用百効出子母秘錄

〔添水園隨筆赤斑瘡辨〕麻疹マジナヒウタの呪歌マジナヒウタ

麥どのはうまれながらにはしかしてさてそののちはわがこなりけり、四の句、或はかけての、ちはと云々、又はみえての後はと云々、此呪歌を貝多羅葉の面に書て、裏にはその人の年齢を付て、その葉もて身體を残る所なく撫廻して、さて右の葉面なる、麥の字の上方に、灸三壯して後、川水にながし捨るなり、若貝多羅葉なき時は、柿の葉をもてこれに換かくすれば、麻疹甚輕して、萬に一失なし。○下略

〔醫事漫錄二編〕蝦夷地にて、病者あるときは、イナヲにて、武者の形を造り、佩刀、鍔、縁頭など飾りつけて、枕もとにおく、こは源判官義經の神靈なりとぞ云々。東蝦夷夜話卷之中

〔撈海一得上〕今兒戯ニ蝦墓ヲ捉テ嬾殺シ、地ニ小坎ヲナシ、車前草ヲ襯キ、死蝦墓ヲ安頓シ、上ニ又車前草ヲ被ヒ、畢テ、小兒圍繞環列シテ、祝テ曰、かいるどののおゑにやつた、おんばくどの、おんともらいト、齊聲擊壤テ是ヲ呪ス、須臾ニシテ、死蝦墓蹶然跳躍ス。按、毛詩芣苢疏曰、韓詩云、芣苢曰、車前草、郭璞曰、今ノ車前草、大葉長穗、江東呼、蝦墓衣、陸機草木疏云、車前草一名、蝦墓衣。○中略此ノおんばこのを以ミレバ、應神仁德ノ前醫藥ナシト云ベカラズ、少彦名命始テ醫藥ヲ作ル、今歲除ニ五條ノ天神ニ詣テ、木ヲ授テ疫ヲ驅除ス、又丹波康賴ノ醫心方三十卷、今人間ニ不見トイヘドモ、日本ノ古方往々傳レリ。

〔先哲叢談續編〕戴曼公 名笠、字曼公、號荷鋤人、明杭州人。○中略

曼公常謂、術同道廣治不視方、濟人及物、內外本行、應機臨變、儒釋活路、方技又然、最長痘科。云、或有云、近

下傳、曼公方書、祖述其說者、獨以痘科爲一家、今未詳其傳來者、附託曼公、粉飾欺人、世皆受其籠絡、不知高玄岱親受業於曼公、修錄遺事、遂不一言及此、甚可疑矣。

〔千重之比登邊〕池田瑞仙 痘瘡家ト稱セラル官醫